

—2025年の振り返りを
清水建設の完全子会社になつたことは、大きな出来事だった。



土木分野は案件の共有化、建築分野では顧客の情報交換などを行ない、受注に結び付ける。人事交流でもシナジーを發揮できると期待している」

「業績面では、中期経営計画の2年目ながら、最終年度である26年度の目標値に近い結果を残

せた

—26年の展望は

「これまで積み上げてきた事業や取り組みを玉台に、目標達成を目指す。主力である建設事業のか、海外事業を発展させるための施策を強力に推進する」

「建設事業は、傘下の地域舗装

戦できる」

—海外事業の方針は

「タイとマレーシアで事業を開しており、舗装工法を根付かせ

「低炭素技術は国だけでなく地方自治体にも売り込み、実装してもらう。このほか、アスファルト代替バインダー、環境配慮型アスファルト舗装『バイオ炭アスコン』、循環型社会形成に寄与する『すりもみ骨材』など再生材の利

主力事業生かし海外伸ばす

買収)や分社化を検討する。一方、当社は清水建設とのシナジーを生かした民間営業網を活用しつつ、高い積算精度を強みに中央官庁、純民間工事の受注を目指す。製造・販売事業は、地域のプラントを維持しながらリサイクル事業も成長させたい」

ながら伸ばす。タイでは廃ペットボトルを再利用した『PETアスコン』をはじめ、リサイクル事業の話が出ており、製品販売事業の準備をしている。このほか、バン

今年の一字に選んだのは、「明」「明るい年にしたい」との思いを込めた。「社員が明るく過ごせたらうれしい」とも。



力を入れ、協力する企業やターゲットとする領域を検討する。特に、私学の競技場改修といった需要を見据え、M&Aも進め。イベントの運営管理など、Park-IP

力を入れ、協力する企業やターゲットとする領域を検討する。特に、私学の競技場改修といった需要を見直し、営業に力を入れる。また、海外に目を向ける若手を増やすため、グローバルに関連した研修制度を整える。施工部隊のローカル化に向け、人事交流も行う」